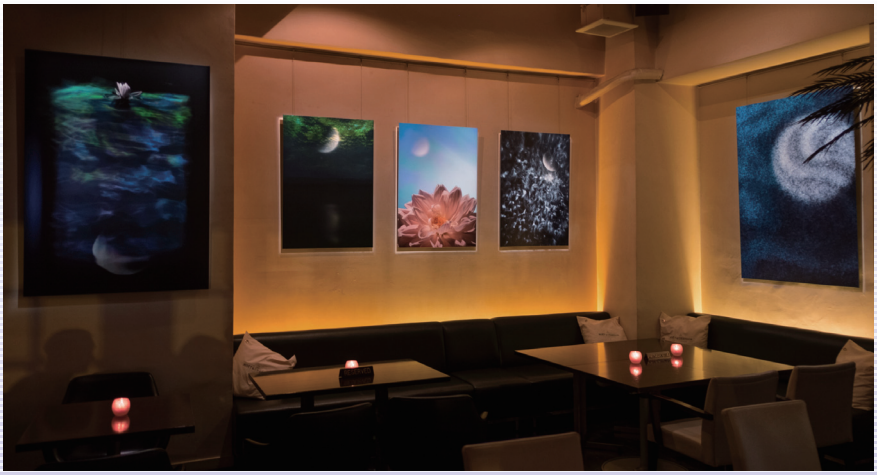
EPSON
EXCEED YOUR VISION

B0Plus インクジェットプリンター SC-P9050G

重厚感のある「黒」を表現する「UltraChrome HDXインク」が写真家の感性に応える。

SureColor SC-P9050G



2015年12月、東京代々木上原の「Fireking cafe」にて中村成一写真展「月読-TUKUYOMI-」が開催。B2～B0の作品がカフェ内を彩った。
繊細な同氏の作品表現に応えた、SC-P9050Gの実力について、お話を伺った。

「株式会社中村写真事務所」様

武蔵野美術大学非常勤講師なども勤める中村成一氏は、株式会社資生堂宣伝部で20年にわたり数々の広告写真を手がけ、朝日広告賞、電通賞部門賞、ADC賞ほかを受賞。資生堂の企業文化誌「花椿」の撮影などにも携わってきた。同社退社後、2006年に株式会社中村写真事務所を設立。

株式会社中村写真事務所
代表／フォトグラファー
中村成一 氏

■出力用途
写真展展示作品のプリントなど

■利用ソフト
Adobe® Photoshop®など

▶写真展開催にあたって

ライティングでどこまで表現できるか？ 合成なしの一発勝負です。

2014年の9月に東京・池袋で同名の写真展「中村成一写真展「月読-TUKUYOMI」」を開催させていただいたのですが、今回はその続編です。前回はエプソンのPX-H10000と株式会社トクヤマの「フレスコジクレー」を組み合わせての展示でしたが、今回はSC-P9050Gを新たに導入。用紙には、イルフォード社の「ゴールドファイバーシルク」を使用しています。

テーマとしては前回同様に光や影を月に見立てた連作で、前回の展示から6枚、新規に撮影したもの10枚の計16枚を展示しました。

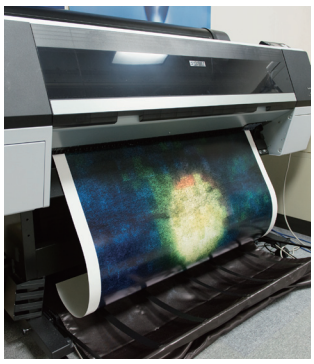
撮影のアイディアは、ガラスや水など身近にあるものに光が差したときの反射や揺らめきなどから着想し、キーワードやデッサンなどを作成して“月の世界”を作り出します。さらに撮影段階で、時間帯や風の有無などをイメージして作品化しています。ライティングでどこまで表現できるか勝負したいと思っているので、合成などは行わず、1点あたり、1日から数日をかけてじっくりと撮影しています。

▶SureColor SC-P9050G

SC-PX5VⅡと同系統の新インクで色やトーンの再現が抜群です。

SC-P9050Gは、導入後すぐに今回の写真展用のプリント制作となりましたが、これまでもPX-9550やPX-H10000といったエプソンのプリンターを使用して素晴らしい結果を得てきたこともあり、信頼感を持って安心して出力することができました。しかもSC-P9050Gは、A3ノビプリンターのSC-PX5VⅡと同系統となる新インク「UltraChrome HDXインク」を採用しているため、SC-PX5VⅡとほぼ同じ傾向の色再現が得られます。モニターで画像調整を行った後、テストプリントはSC-PX5VⅡ、最終チェックと本番プリントをSC-P9050Gで行うといったワークフローでほぼ問題なく出力することが可能。出力速度も従来機よりもかなり速くなり、非常に効率良く作品製作ができました。

また、今回イルフォード社のご協力により使用しました、バライタベースのファインアート紙「ゴールドファイバーシルク」との相性も良く、非常に豊かな階調と色再現を引き出すことができました。特にグレーインクが増えたことで、黒の濃度やシャドー部のトーンなどが素晴らしく、従来機を上回る質の高い作品に仕上げることができたと感じています。



▶ご感想

印刷速度が格段にアップし、作品印刷以外も非常に効率良く行えます。

SC-P9050Gと色再現が極めて近いSC-PX5VⅡを普段から使っていることもあって、導入後すぐ使いこなすことができました。SC-PX5VⅡの8色に対して、SC-P9050Gは10色という違いはありますが、SC-PX5VⅡでA4などにテストプリントすることで、ほぼイメージどおりの作品を仕上げることができるのは、やはり魅力です。実際、画像調整も明度とトーンを展示する環境などに合わせて調整した程度で、色再現については問題なく作品を出力することができました。SC-P9050G導入前にはPX-9550などを使用しており、2014年の写真展ではPX-H10000も使用。どちらも満足度は高かったのですが、比較すると黒インクが増えたことで、黒の濃度はSC-P9050Gが一枚上手。シャドウ部のトーンなどの再現性も良好です。印刷速度も速く、体感上は30%程度短縮されている印象です。

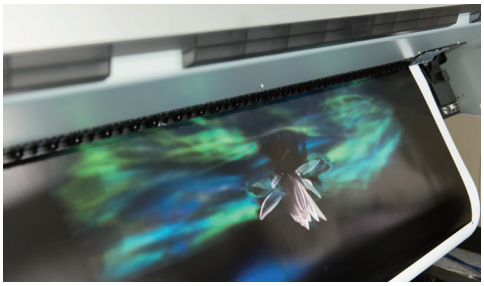
今回の写真展では、イルフォード社の「ゴールドファイバーシルク」を使用しましたが、これはバライタベースの印画紙調の紙です。非常に厚手でポーラス型というインクの吸着性が非常に高い用紙です。極めて色再現性が良い一方で、使用するプリンターを選ぶ紙だと思うのですが、SC-P9050Gとのマッチングの良さにも驚きました。結果、予想以上の素晴らしい仕上がりにできました。カメラは、ミドルフォーマットのCCDを採用したライカ社の「ライカSシステム」を用いています。これに70ミリの標準レンズを装着して撮影しているのですが、情報量が多く奥行き感を表現しやすいCCDならではのデジタル画像を、SC-P9050Gと「ゴールドファイバーシルク」の組み合わせで、存分に再現できたと思います。

プリント作業については、印刷速度が速いだけでなく、全ての作業が効率化されて、素早く行えるようになっています。いちばん関心したのは、ロール紙を入れ替えるときに、以前はロール紙を支える棒（スピンドル）を中軸に差し込む必要があったのですが、SC-P9050Gではロールの両サイドにアダプターを取り付けるだけになった点です。これで、アシスタントがいなくても一人で楽に用紙交換できるようになりました。インクも大容量化し、交換頻度が少なくていいのは助かります。また、印刷後のカッティングも素早くなっています。

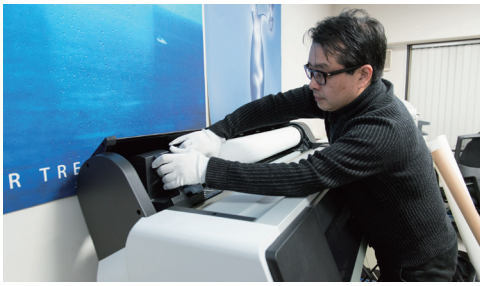
SC-P9050Gは作品印刷のほか、ポートレート撮影の背景紙作りなどにも活用しています。そうした作業も非常にスピーディーで効率良く行えるので、今後は作品印刷に限らず、さまざまな撮影で大活躍してくれるだろうと感じています。

「Fireking Cafe」の壁面に飾られた中村氏の作品。落ち着いた雰囲気の店内に氏の独特の世界観がマッチする。作品は、月に見立てた照明や水槽に入れた水、紙などを巧みに組み合わせて表現されている。

時間によって店内照明の明るさが変わる。暗めの照明となる夜は、作品が浮き上がって見え、中村氏お気に入りの時間帯。



SC-P9050Gは黒の締まりがよく、ライティングで作り込む中村氏の作品に最適。青などの繊細な色の再現性も抜群で印刷も速く静か。



スピンドルレスとなり、用紙交換が素早く行える。作業はロール紙の左右にアダプターを取り付けるだけで、一人でも作業が可能。

▶評価のポイント

- ☑ SC-PX5VⅡと同系統のインクによる優れた階調と色再現
- ☑ 印刷速度が速くなり、作業効率が格段にアップ
- ☑ スピンドルレスで簡単に素早い用紙交換が可能

Adobe、Photoshopは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標または商標です。

製品に関するお問い合わせ・資料請求は下記まで

プリンター購入ガイドインフォメーション

TEL.050-3155-8100

http://www.epson.jp/

＊本書に記載された会社名・商品名は各社の登録商標、または商標です。